読むと元気になる活字のビタミン
ORANGE オレンジ新聞
FROM：小山薫堂（責任監修）率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち
第22号 2010.12.18

日本の未来を創造するひとたち

▲ 子供たちは興味しんしん！

子供に創造の場を

日本の子供たちに、もっと創造力や表現力を発揮する場を作ってあげるべきではないか…。子供の創造力などを伸ばすためのワークショップを開催するＮＰＯ法人「キャンバス（CANVAS）」は、そんな理念をもとに立ち上がった団体だ。8年前のスタートから深く関わってきた副理事長の石戸奈々子さん（31）は、創造力豊かな子供たちが、日本の未来には欠かせないと考えている。

◀ 副理事長の石戸奈々子さん

1億国民総クリエーターを目指して

キャンバスが実施するワークショップは、本当にさまざまだ。生け花やお菓子を使った街づくりを始め、粘土をつかってアニメーションをつくる「クレイアニメ」、映画やロボット制作など、デジタルを取り入れたワークショップが多いのも特徴。昨年は全国にある80のワークショップを一堂に集めたワークショップの博覧会「ワークショップコレクション」を実施、2日間で約3万5000人の参加者を集めた。

石戸さんは、「子供も大人も、表現することのすばらしさをもっと知ってほしい。今の日本には、創造して発信していくことが必要です」と話す。

願いはかなう

キャンバスは2002年、子供の豊かな発想を養う土壌を作ることなどを目的に設立された。当時、石戸さんは米マサチューセッツ工科大学で客員研究員として、「子供とデジタルの関わり」を研究。デジタル化が進む中、子供にとって創造力やそれを発信する行動力などが重要になると感じ、知人らに相談したのがきっかけだ。

石戸さんは「当時の日本には、子供の創造力を養う土壌があまりにも少ないと思いました」と振り返る。そこで立ち上げたのが、子供のためのワークショップを行うキャンバスだった。

設立からの8年間、石戸さんはワークショップ運営のため全国をかけ回った。最初のころは「創造力って？」「子供のワークショップって?」という声も多く、なかなか理解を得られないことも。しかし、開催後には「楽しかった」「また開催して」などの声が寄せられ、支援も広がったという。

創ることが人を輝かせる

石戸さんがワークショップを通して実感したことは、子供の目が輝けば大人の目も輝くということ。「子供を通して、大人も変わっていく。そのことに気付いたんです」。今では260人もの支援者が参加し、ワークショップへの参加人数も何十倍にもなった。

「テクノロジーの進化によって表現し、発信することも簡単にできるようになった今だからこそ、もっと想像してもっと創造することを伝えたい」と石戸さん。熱い思いを胸に、日々活動を続けている。

キャンバス（CANVAS）
http://www.canvas.ws/

謎解きウォーク

謎を解きながら商店街などを歩き、その街の隠れた魅力に触れてもらおう―。ＮＰＯ法人「日本ビジネス作家協会」事務局長の廣川州伸（くにのぶ）さん（55）は、全国で「謎解きウォーク」と題したイベントを開催し、観光客に街の名所を紹介している。廣川さんは「人と人がふれあい、協力していくことでみんなが笑顔になるのがうれしい」と謎解きウォークの魅力を語る。

推理小説で街おこし

11月下旬、千葉県いすみ市を舞台にした「謎解きウォーク」が開催された。集まった参加者約30人の前に現れたのは、チェックのベレー帽にマントをまとい、シャーロックホームズに扮（ふん）した廣川さんだ。参加者は、地図と10か所のポイントがストーリー仕立てで書かれた「ストーリーブック」を受け取り、さっそく謎解きに出発した。

謎解きウォークのルールはとっても簡単。設定されたポイントをヒントや地図を参考にしながら歩いて探し、ポイントに記されたローマ字を集める。集めたローマ字をひらがなに直すと、言葉が完成する仕組みだ。答えを記入して投票箱に応募すると、抽選でご当地名物などが当たる。

◀ シャーロックホームズに扮した廣川さん

魅力ある街なのに…

きっかけは10年前、ＪＲ相模線の沿線を歩いたときのこと。廣川さんは当時、神奈川県のアドバイザーとして相模線沿線の魅力を探っており、駅前から離れれば魅力的な街並みが広がっていることに気付いた。「ところが、駅前はどこも同じ店が並んでいてつまらない。観光客には歩いてもらわないと街の魅力は伝わらないと感じました」

地域の魅力をどうしたら引き出せるのか…。ヒントをくれたのは、作家仲間の伊井圭さんだった。伊井さんは埼玉県深谷市で、参加者が謎を解きながら街を歩く「深谷宿ミステリーツアー」を実施。イベントに参加した廣川さん、参加者が生き生きと街の魅力に触れていたことに感激し、全国に広めようと各地を回った。これがきっかけになった。

ふれあいの大切さ

廣川さんは、静岡県下田市で開催した謎解きウォークが忘れられないという。街を歩いていた廣川さんに、陶器店の女性が「この店で買い物をする人は1年で５組ほど。なのに、きょうは何百人もの人があいさつに来てくれましたよ」と笑顔で話したのだ。こうした体験は、今も廣川さんの支えになっている。

また、推理小説作家は全国に５００人以上いるが、執筆で生計を立てられる人はわずか。「地域の魅力を引き出すには面白いストーリーブックが欠かせません。それが作家の活躍の場にもなれば」。日本を元気にしたいと願う廣川さんの夢はつづく。

地域の魅力を再発見する
謎解きウォーク
http://nazotokimeki.jp/

編集後記

世界から見た日本、地方から見た日本。見方を少し変えるだけで多くの人とふれあうことで様々な可能性が広がって行くのだと改めて実感した取材でした。皆様にとって来年も良い年でありますように。

まむ2

あなたの夢広がっていますか？

世界を旅した人に、帰国後に夢を語ってもらうミニ番組「TabiPhoto（タビフォト）」が、毎週日曜日午後9時54分から午後10時まで、BS日テレにて放送中です。企画・監修は当紙面責任監修者である小山薫堂が担当。勇気や元気がもらえる番組です。

また、番組では旅を紹介してくれる方を募集しています。詳しくは公式HPへ。

http://www.bs4.jp/tabiphoto/

（株）オレンジ・アンド・パートナーズ編集部
お便り・ご感想もお待ちしております。
ご連絡先
ex@orange-p.co.jp
Webサイト
www.orange-p.co.jp

次回は1月1日（土）お正月号です